

水稻情報

(第4号)

令和4年6月24日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

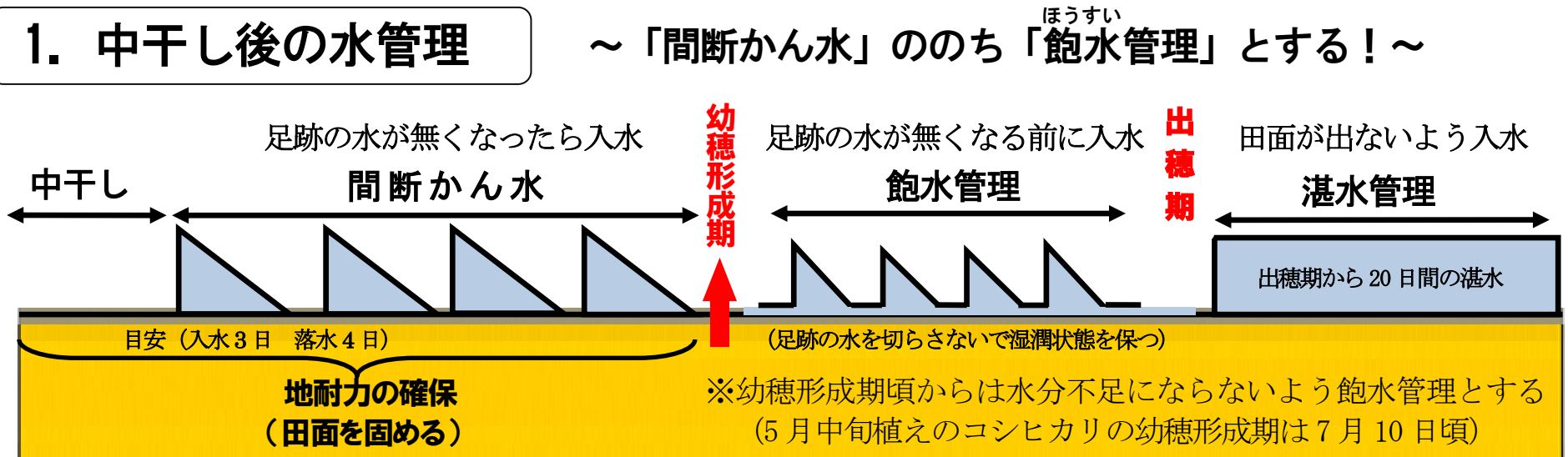
*中干し後の水管理は、「**間断かん水**」、幼穂形成期から出穂期は「**飽水管理**」により、**稲の活力を維持する。**

***畦畔や雑草地の草刈りを徹底し、斑点米の原因となるカメムシ類の発生を抑える。**

6月中旬の水稻の生育は平年よりやや遅くなっていますが、コシヒカリの茎数は平年並みに確保されています。
また、てんたかくの幼穂形成期は近年並みか1日程度遅いと見込まれます。

1. 中干し後の水管理

～「**間断かん水**」ののち「**飽水管理**」とする！～



○中干しが不十分な場合は、くり返し田干しを実施しましょう。

てんたかくは6月25日頃まで、コシヒカリは7月10日頃までに足跡の深さが3cm程度になるように地固めしましょう。

○幼穂形成期以降は飽水管理とし、根を傷めないよう、田干しは原則しないようにしましょう。

(飽水管理は「ほ場に入水→自然減水→足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。)

○出穂後20日間は湛水管理を行いましょ。

2. 「てんたかく」の穂肥

～穂揃期の葉色を4.2～4.5に誘導する！～

○基肥一発肥料の場合

原則として穂肥は不要です。ただし幼穂形成期前後 (6/25頃) に葉色が4.0(砂壤土で4.2)より低下した場合は、追肥3号で10kg/10a (N成分: 1.5kg/10a) 程度の追加穂肥を行い、穂揃期の葉色を4.2～4.5(砂壤土で4.5)に誘導しましょう。

○分施の場合 ……追肥3号の施用時期及び施用量の目安 (5月上旬植えの場合)

穂揃期の葉色を4.5に誘導するため、穂肥は遅れずに施用しましょう。

回数	1回目	2回目
施用時期	6/25頃 [幼穂長1～2mm]	1回目の10日後
施用量	10a 当たり 10～12kg	10a 当たり 12～13kg

コシヒカリ、てんこもりの穂肥については次号でお知らせします

3. ケイ酸の補給

～ケイ酸を補給して稲体を丈夫に！～

○入水後、7月5日頃までに下記のいずれかの資材を施用し、稲体の活力を向上させましょう。

- ・PK けい酸 (20kg/10a) ・エスアイ加里らくだ (15kg/10a)
- ・エスアイ加里カリ投げくん4kg/10a (200g×20パック)

※ JA あおばのおすすめ資材です。(5cm以上の湛水状態にして水田にパックを投げ入れるだけ)

ケイ酸の効果

- ① 根の活力を高める
- ② フェーン時に水分の蒸散を防ぐ
- ③ 茎葉を丈夫にし倒伏を防ぐ
- ④ 受光体勢を良くし登熟を高める

栽培履歴の記帳とGAPの実践を！！

うら面に続く

カメムシ対策 第4回

草刈運動期間 7月1日～7月10日 一斉草刈日 7月2日(土)～3日(日)

1. 草刈りの徹底

～格下げの主要因はカメムシによる斑点米！！～

◎カメムシによる斑点米被害を防ぐには・・・
畦畔等の草刈りの励行と基本防除が不可欠です。
また、ほ場内にノビエやホタルイが残っていると被害を助長するので抜き取りも行いましょう。



アカヒゲホソミド アカスジカスミカメ クモヘリカメムシ
リカスミカメ

雑草の管理について

- ・斑点米の発生防止のため、カメムシ類の発生源となる畦畔や水田周辺の雑草地の草刈りを徹底し、一斉草刈り後も雑草の穂が出ないよう草刈りを継続しましょう。
- ・大麦跡に作物の作付けを行っていない場合は、雑草等が繁茂しないように7月10日頃までに耕起しましょう。



カメムシ類が好む主なイネ科雑草
(左:ナギナタガヤ 右:メヒシバ)

安全な草刈り作業について

- ・草刈り作業の際は防護具を装着し、小石等の飛散による被害を防止しましょう。
- ・高い畦畔では途中に小道をつけるなど、足元をしっかりと確保しましょう。
- ・1時間に1回は5分以上の休憩を取るとともに、水分補給も十分行い、熱中症の防止に努めましょう。



2. 随時防除

本田基本防除については、次号でお知らせします

○紋枯病の発生がみられたら随時防除をしましょう。

- ① 一般のほ場の場合
 - ・防除時期：穂ばらみ期
 - ・防除薬剤：モンカットファイン粉剤20DL(4kg/10a)(収穫14日前まで)
又は、
バシタックゾル(1,000倍、100～150ℓ/10a)(収穫14日前まで)
- ② 住宅地など粉剤・液剤散布が困難なほ場での粒剤体系による防除
 - ・防除時期：てんたかく 7月10日頃
コシヒカリ 7月26日頃
 - ・防除薬剤：イモチエースキラップ粒剤(3kg/10a)
(収穫35日前まで)

やや深めの湛水状態で散布。
散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

農作業は安全優先！！熱中症対策にも留意しましょう。

水稻情報第5号の発行日は7月7日(予定)